

## 世界の人とふれあいタイム



### 「エクアドルの話」

平成 24 年 6 月 24 日実施

今回のゲストの樋口カプリエラさんは、2003 年に来日し、スタイリストの資格を取得し、昨年は娘さんの七五三のお祝いで着付けをしてあげたそうです。

さてエクアドルは南米大陸の西南に位置し、アンデス、アマゾン、コスタ（太平洋沿岸部）、ガラパゴスという全く異なる地域に分かれていて、赤道が国を東西に横切っています。南米で一番人口密度が高く多様な民族が混在しているためか、公用語のスペイン語の他に 180 の異なる言語が使われているそうです。国旗の由来については、横縞の黄色は鉱物資源、青は海、赤は血を象徴し、紋章はアンデスの鳥コンドル・国内の最高峰モンボラ山・商船・青空と黄道などが描かれています。

料理については、米より豆等の穀物がよく食べられ、アンデス地方のジャガイモ、トマト、赤玉ねぎを食材としたサラダが好まれています。今回ウミタ料理を紹介して頂きました。調理法はバナナを食材とした料理で、スープ用に揚げたりするそうです。なおチョコバナナは子どもに人気があります。

ワヤキル港は、インカの顔とも呼ばれ人口は約 200 万人でエビ、イワシ、コーヒー、カカオ等がアメリカや日本に輸出されています。ここには、南米独立の父であるシモンホッパ氏の像が建立されています。また野口英世が 1918 年にグアヤキル市を訪れ黄熱病研究を行った時の記念として、首都のキトの空港近くに銅像があり、「野口英世通り」という名前まであって、現在も博士との縁を懐かしんでいます。



民族衣装のカプリエラさんと娘さんとお友達

さてガラパゴス諸島は、1978 年ユネスコにより世界遺産に登録されました。一方アマゾン火山国立公園は動植物の多様性において世界最大規模で、自然の薬草やコカ、バナナ、コーヒー、カカオ等は現地住民によりここで栽培収穫す

るなど、自給自足を行っています。

なおアマゾンの近くの川は 40℃～50℃の温泉が湧き出ている、水着を着用して入ります。ここでの先住民は普段は民族衣装を着用しています。アンデスの民族衣装は 6～7 枚のスカートとボンチョで構成されていて、値段は先住民が作ったもので 5 万円位ですが、靴下は履きません。ここでの先住民はいたる所で生活していて、職業選択に際しての差別はありません。またデモ(石油を採掘しないように)はありますが、民族同士の対立はありません。

Q&A コーナでは、キトは首都であるだけに、物価が一番高い地域です。参考までに、ロハでの 9 年前の平均給与は 3 万円、現在は 4～5 万円で、この国での給与の定義は生活するものだそうです。子どもたちはどんな職業につきたいのかという質問に対し、女の子は先生、お医者さん、銀行員、秘書等、男の子はサッカー選手への希望が多いそうです。なお税金については消費税が 12%、所得税は約 20%です。



カプリエラさんたちのダンスの演出に拍手が沸いた

教育については小学校 1 年生から英語教育があり高学年になると、フランス語、ポルトガル語、イタリア語学習もあります。なお自宅ではスペイン語を話します。

カプリエラさんの将来の夢は「早い時期に日本の着物に携る仕事がしたい」そうです。日本のイメージについては、男性の場合は頑張り屋、努力家で、女性の場合は理想的な母、素敵なお母さんとの事でした。

会場を訪れた方々のアンケート結果は「大変良かった」との意見が多く、JICA の仕事でエクアドルに住んでいた方からは当時は懐かしさを感じられ再度訪れたいとのコメントがありました。

ふれあいタイム委員長 生山 龍哉

※ 次回：9 月 29 日(土)は「ブルガリアの話」です。土曜日ですが、お時間のご都合のつく方ぜひご参加ください。